

森野 卅四 五分一

百々 第參拾八回 百米競走

木村 十三秒五分三

後藤 十三 五分四

野村 第卅九回 百米競走

尾本 十四秒五分二

宮川 十四 五分三

山岸 第四拾回 百米競走

烟十五秒五分一

辻村 第四拾壹回 百米競走

南城 同 五分二

江龍 第四拾貳回 榎廻し

渡邊 十五秒五分一

古河 同 五分二

江龍 第四拾貳回 榎廻し

梅本 一分三〇秒五分四

西澤君は本日のたるまはし競走のレコードの保持者
なり。

吉田 第四拾七回 榎まはし

藤堂 一分三一秒五分四

渡邀 一分四三

赤井 第四拾八回 榎まはし

前谷 一分十六秒五分二

木村 富永 一分三三 五分一

阪本 五五秒五分二

植田 第四拾九回 障碍物競走

前田 中村 瀧上 第五拾回 障碍物競走

第五拾壹回 障碍物競走

第五拾回 障碍物競走

第五拾壹回 障碍物競走

脇阪 一分三一

中川 一分廿八秒五分二

伊藤 一分卅三 五分二

居原田 一分廿二秒五分二

藤林 一分卅三 五分四

山田 一分廿一秒五分三

守野 一分四一 五分四

大兵肥満の藤林君の一着には観衆一齊に拍手した

第四拾五回 榎廻し

西澤 一分十三秒五分三

桂田 一分廿二秒五分一

西澤 一分十三秒五分三

一着 後藤 三一秒
二 不明 三二

三 二 二 一 着
山 本 第五拾七回 盲馬三脚
藤林、梅本 五〇秒五分四

二 二 三 一 着
桂田、石田 五〇秒五分四
辻、松本 五〇秒五分四

二 二 三 一 着
朝比奈、内藤 五〇秒五分四
森野、杉本 五〇秒五分四

二 二 三 一 着
林、木村 一分一秒
第五拾九回 重荷競走
久保田 四五秒五分一

二 二 三 一 着
廣田 五〇秒五分四
森 五〇秒五分四

二 二 三 一 着
第六拾回 重荷競走
織田 三五秒五分二

二 二 三 一 着
谷川 三六
上田 第六拾壹回 千五百米競走

汗握つて見物す。平軍の勝に歸す。
第六拾六回 榎廻し

一着 高畠春 一分一三秒
高畠純 一分二一

○小學校、中學校優勝旗返還式行はる
第六十七回 たるまはし

一着 藤田 一分四〇秒
圓城 一分四三四分五

三 中川 第六十八回 榎廻し
第六十九回 重荷競走

一着 圓城 一分四三
北村 三七秒五分二

三 中野 第六十九回 重荷競走
第六十五回 重荷競走

一着 北川 三六秒五分三
第七十回 重荷競走

一着 岡崎謙 三五秒五分一

一着 羽根田

一着 宮内
高橋 西崎 中

二 三 五 一 着
上林 第六拾貳回 選手競争
澤井 一分二秒五分二
久保田 一分二秒五分三

二 三 五 一 着
竹腰 第六拾參回 障害物競争
澤井 一分三 五分一
山口 一分三 五分一

二 三 五 一 着
第六拾四回 百米競争
青柳 十四秒
北村 十四 五分一

二 三 五 一 着
第六拾五回 源平野試合
紅白兩軍必死に戦ひ七分の後勝負決す是時觀衆手に

二 三 五 一 着
西川 第六拾五回 源平野試合
北村 十四 五分一

二 三 五 一 着
第六拾五回 源平野試合
北村 十四 五分一

二 三 五 一 着
第六拾五回 源平野試合
北村 十四 五分一

二 三 五 一 着
伊藤 同 五分二
岡崎諒

二 三 五 一 着
第七十一回 重荷競走
西澤久

二 三 五 一 着
千本 杉本 三六秒五分一
辻富同 五分二

二 三 五 一 着
第七十二回 高等小學選手競走
高木 沢田

二 三 五 一 着
彦根 杉本 三六秒五分一
小堀 善七

二 三 五 一 着
第七十三回 尋常小學選手競走
深田 沢田

二 三 五 一 着
第七十四回 二分間競走
矢田 佐之 沢田

二 三 五 一 着
高宮 一分二秒五分三
西村 正雄

二 三 五 一 着
第七十五回 二分間競走
中村義太郎

二 三 五 一 着
第七十五回 二分間競走
北川菊次郎

丸は一齊に發射せられたり。

筒より出づるあの赤き而も鋭き光は——あの音は十壯烈勇烈言語に絶する有様なり。此處に於てあらゆる競技の幕は閉ざされたり。ついで優勝の記念の御旗は五年に落つ。分列武は時間遅きに付、オミットせられたり。校歌は一齊に若殿原によりて高唱せられ目出度解散せり。

以上

三、四、五年々級優勝レース

百 米 五年 藤本 一三秒 得點 1

竹越 一三 五分二 得點 4

四年 辻 藤本 得點 0

三年 安居 一三秒五分一 得點 0

四年 北村 藤本 得點 2

五年 竹腰 二八秒 得點 5

四年 辻 桑原 二八秒五分三 得點 5

五年 尾本 六分△秒 得點 1

四年 中村 六分二秒五分四 得點 2

三年 北村 六分二秒五分四 得點 1

羽根田 穂分三秒五分三 得點 6

四年 尾本 吉田 得點 0

三年 北村 四六分二八秒五分三 得點 3

四年 級 富永 得點 0

三年級 一分五六秒 得點 3

G 八百米リレー 五年級 二分 得點 1

四年級 二分 得點 0

球 五年 赤井 得點 0

H 投

C 四百米 五年 竹腰 一分四秒 得點 1
D 八百米 五年 藤本 三分一〇秒 得點 5
E 千五百米 五年 宮内 六分一秒五分二 得點 0
F マラソン 五年 宮内 四三分五七秒五分四 得點 1
G 八百米リレー 五年級 二分 得點 3
H 投 球 五年 赤井 得點 0
I 圓盤 投 五年 西澤 七二、七尺 得點 4
J 砲丸 投 五年 西澤 三〇、八五尺 得點 0
K 高木 五年 高森 二六、六五尺 得點 4
L 橋本 三年 安居 安居 得點 0
M 宮村 三年 小玉 得點 2
N 辻 四年 藤村 七〇、八五尺 得點 4
O 大鳥居 三年 奥村 八六、七米 得點 3
P 田中 四年 藤本 九二、九八米 得點 3
Q 赤田 四年 藤本 九二、九八米 得點 0
R 井澤 三年 奥村 八六、七米 得點 3
S 高橋 三年 奥村 八六、七米 得點 3
T 田中 三年 奥村 八六、七米 得點 0
U 田中 三年 奥村 八六、七米 得點 0
V 田中 三年 奥村 八六、七米 得點 0
W 田中 三年 奥村 八六、七米 得點 0
X 田中 三年 奥村 八六、七米 得點 0
Y 田中 三年 奥村 八六、七米 得點 0
Z 田中 三年 奥村 八六、七米 得點 0

K 檜 投 げ 五年 赤 田 得點○

三年 北 村 小 川 得點○

四年 大 谷 一二二、七六尺 得點 3

N 走 高 四 五年 長谷川 四、六尺 得點 3

三年 富 永 一一五、三五尺 得點 3

四年 大 谷 五尺 得點 3

しホ、ス、ジヤン 五年 長谷川 得點○

三年 小 玉 五尺 得點 3

四年 脇 阪 一〇、二一米 得點 1

四年 一八點 得點 1

三年 小 玉 一〇、三〇二米 得點 5

三年 三一點 得點 5

M 走 巾 跳 五年 長谷川 一五、八二尺 得點○

小 川 得點 3

四年 脇 阪 一五、八尺 得點 5

四年 一八點 得點 5

四年 浅 岡 一五、二二尺 得點○

三年 三一點 得點 5



大正十三年彦中應援團記錄



第二條 本團ハ各運動部ノ振興ヲ圖リ規律節制アル應援ヲナスヲ以テ目的トス

第三條 本團ハ各運動部選手ノ辞退ニツキテハ之ヲ干與スルコトアルベシ

第四條 幹部ハ五年級生徒ノ選舉セルモノニシテ全責任ヲ負ヒ且ソノ目的ニ關シテハ絶對ノ權利ヲ有スルモノトス

第五條 幹部ハ五年級生徒ノ合議ニヨリ適宜改選スルコトヲ得

第六條 團長及副團長ハ幹部ノ互選ニヨリテ之ヲ定ム

第七條 四年級三年級ノ各組生徒ノ選舉セル評議員壹名ヅ、置ク

評議員ハ幹部ヲ補佐ス

第八條 一定ノ應援歌ヲ設ク

第九條 本團一切ノ行動ニツイテハ豫メ指導者ノ了解ヲ得ベキモノトス

應援團團則

第一條 本團ハ全校生徒ヲ以テ組織ス

創立を見たのである。

第十條 本團則ハ各自必ず嚴守スベキモノニシテ時宜

ニヨリ幹部ノ合議ニ基キ校友會長ノ承認ヲ經テ適宜
變更スルコトヲ得

陸立メ身立メ團長

副團長 奥村竹藏

若林展次郎 北村善鐵

笠原和雄 堀川辰之助

羽根田廣造 藤山田種彦

伊鹿谷吹慈義雄 堀川辰之助

種村誠一郎 本吉彦

青山正郎 青山正郎

鹿谷吹義雄 堀川辰之助

若松文太郎 田種彦

坂榮一郎 松文太郎

西村駿一郎 堀川辰之助

若羽根田廣造 藤山田種彦

若伊鹿谷吹慈義雄 堀川辰之助

若種村誠一郎 本吉彦

若青山正郎 青山正郎



彦中應援歌

彦中應援歌（第一）

一、鳴呼英傑が夢の跡 歴史は遠く三百年

金龜城頭我立ちて 尚武の風に嘯けば

二、花橘の香にほふ 健兒の意氣は天を衝く

氷刀腰に夜泣いて たぎる正義の血潮あり

三、あはれ雲待つ蛟龍の 強風陣々雲捲いて

猛者一度地を搖れば 行手に敵の影もなし

四、旌旗は高く天を麾し 金鼓勝利を告ぐる時

月の桂の香に咽ぶ 今宵健兒の夢如何に

彦中應援歌（第二）

一、今月桂の冠は

綠選手を照すべし

抑へよ健兒等應援旗

歌へよ喉の裂くるまで

二、榮ある今日の選手等よ、雌雄を決する時なるぞ

歌へよ我等と諸共に 日頃の手並いざ示せ

彦中應援歌（第三）

一、金龜の御城を仰ぎつゝ 鐵腕鍛冶し赤鬼の

彦中健兒の血はほどばしおこに立ちたる野球團

（テニス團）

二、金龜城下の闘の聲 天下の粹ぞと仰がれて

琵琶の湖上に秋月高く 輝く選手がその烈

彦中應援歌（第四）

一、菊憲々にたぐねん 黄金の時はいまぞ見る

我部の榮にめでたくて

常盤の松の下露に

三、春風秋風たゆみなく 鋸磨き得し健男兒

音に健兒の意氣見すや

彦中應援歌（第五）

一、敵壘如何に堅くとも 撃てば破れぬことやある

四、健兒が意氣の溢れては 我は動かぬ鐵の城

紅葉血沙の色に出で 夕陽に映りて滴れり

彦中應援歌（第六）

一、そも外敵は何者ぞ 我には赤き心あり

赤き心の熱血を 血潮に染めし我旗を
血潮に染めし我旗を 仰がぬ敵のあるべきぞ
彦根男兒の敵いづこ

彦中應援歌（第六）

一、あゝ勇壯の我彦中

今日大會に數多き

譽はこゝに三河武士

二、八重の兜に緋緘の

腕は劣らじ金の筋

生氣溢るゝ熱血は

三、漣蹴たてゝ進み行く

聞け大洞の山の上に

あゝ勇壯の我が彦中

勇敢なる哉我が健兒

レースの中に花と見る

握るや月の桂枝

鎧や太刀は佩びねども

心は變らじ敷島の

秋の紅葉の色染めん

オールの響、勝闘を

勝利を告ぐる夏の風

勇敢なる哉我が健兒

各運動部に對する所感

應援團長 奥村竹藏

本團は最初より種々の故障のためその創設が非常に遅れ各運動部に迷惑をかけたことは實に殘念である。又僕のやうな無經驗の者が幹部に伍し且團長の重い任に就くことは誠に不適と最初より辭退したが事の成行上遂にこの任を受けねばならぬことになつた。爾後約一箇年各運動部に對しては何等貢獻する所なく又幹部諸君及團員諸君の期待を裏切つたことは私として遺憾に堪へない所、こゝに本團を解かんとするに當り謝辭を呈する所以であります。顧れば昨大正十三年花咲花のうつろふ頃より各運動部の活躍次第に緊張しうひは我校庭に好敵手取組んで火華を散し或ひは遠く猛威を延べて敵を屠り眼前敵なくその意氣誠に當るべか

らざるものがあつた。然しながら天我に與せざるか百日の功、一舉に破れ、各部共に月桂の榮冠を握る能はずして終へたことは返へすべくも遺憾の極みである。野球部は烈日赫々たる炎天下に熱球壯打の猛練習。時しも七月二十五日より京津野球大會は開かれ膳中、三中を一撃に屠り年來の怨敵に遂に又も怨みを重ねて立命に破れ菊輝々の九月廿八日岐滋大會に於ける岐阜中學に對する敗戦又は彦根高商運動場開きに於ける京二中との優勝争覇戦に於て惜敗し恨を長く金龜城下に印し庭球部の滋賀縣下中等學校大會に連戦連勝最後の一歩を膳中に譲りし如き武術部殊に柔道部の強味をして功を爲さなかつたこと其他徒步部の不振、角力部の蹉跎など應援の不充分なこともその敗因の一部だつたかも知れないが各運動部の缺陷故障の故を以て獲得すべき榮冠を失ひ現すべき實力を發揮し得なかつたなど重ね重ね遺憾千萬である。どうか後進諸氏よ。各先進諸君に就いて銳意研究の歩を進めて最後の榮冠を獲られんことを切望します。

又、本校創立以來舊い歴史而も赫々たる名を満天下に轟かした我が端艇部は三年この方漸く不振烈風吹き



(終り)





雜錄

本核記事

(大正十三年一月より十二月まで)

一月

○八日、(月)雪、午前八時半分始業式舉行す。式後第二時限より四十分授業第五時限まで。

○十日、(水)雪、本日午前五時半武道寒稽古始の式を行ふ。生徒出席者九十二名。

○十九日、(土)晴、午前六時寒稽古終了式を行ひ、式後寄宿舍食堂に於て汁粉を饗す。皆勤者柔道五十名、剣道四十七名。

○廿一日、(月)少雪、荒神山にて鬼狩を行ふ。先發

時半より武道々場にて正副級長、校友會理事、選手寮長、應援團幹部等の慰勞會を開き職員一同列席す
○廿一日、(木)曇、第五學年質問日とす。
○廿二日、(金)曇、第五學年及び第四學年一部の爲の學年試験を始む。

○廿八日、(木)曇、東宮及同妃兩殿下彦根驛午前九時十八分御通過に付き全校奉送迎をなす。午前十時より授業す。本日にて第五學年及び第四學年一部の學年試験終了す。

三月

○八日、(土)第五學年生學校手牒を交付す。學藝部の書畫展覽會を行ふ。

○九日、(日)晴、午前十一時第參拾六回卒業證書授與式を行ひ末松知事來臨す。卒業生九十八名總代正野敏次郎。

○十一日、(火)晴、生徒質問日。

○十二日、(水)晴、第四學年以下の學年試験を始む

四月

○八日、(火)晴、午前八時十分始業式舉行、第四學年以下の學力操行優等賞及び精勤賞授與す。式後教

午前八時半、(六時半發の豫定のところ天候不良の爲め遅る)一般生徒は午前九時廿分出發、午後二時終了、兎六匹獲捕す。

○廿六日、(土)雪、皇太子殿下御結婚奉祝の爲授業無し。午後零時五十分より奉祝式を舉行す。午後四時半本校に全校生徒集合、井伊公銅像前に赴き高商其他各學校と聯合し午後五時半より提灯行列を行ふ六時半終了す。

○卅日、(水)ライオン化學研究所技師小田顯一氏來校、午前十一時半より十二時半まで口腔衛生に関する講話をなす。

○卅一日、(木)卒業生記念寫眞の撮影をなす。

○十一日、(月)曇、午前八時半より紀元節拜賀式を舉行す。

○十二日、(火)晴、第三學期小試験開始す。

○十五日、(金)曇、第三學期小試験終了す。午後零

○十八日、(火)晴、學年試験終了、大掃除後講堂に於て終業式を舉行す。

○廿一日、(金)春季皇靈祭、尋常五年修了者に對し小學校卒業檢定試験を行ふ(算術歴史、地理)授驗者一名。

○廿二日、(土)曇、小學校卒業檢定試験(國語、理科)を行ひ、決定二名合格。

○廿四日、(月)曇、學校手帳を交付し成績發表す。

○廿六日、(水)本校入學試験を本日より舉行す。出願者二八二名、出席者二七二名。

○廿七日、(木)晴、入學試験。

○廿八日、(金)晴、入學試験(體格及び口頭)。

○廿九日、(土)午前十一時入學試験合格者發表。

室にて正副級長及び校友會理事の選舉を行ふ。午後零時半より新入學生の入學式を行ふ。新入學生百十九名出席。

○九日、(水)晴、第一时限の始めに新舊生徒の對面式を行ふ。

○十日、(木)晴、級長、副級長任命式を行ふ。校友會理事を決定す。

○十四日、(月)晴、佐久間先生の紹介式を行ふ。

○十五日、(火)晴、西澤先生の告別式を行ふ。

○十六日、(水)雨、午後零時半より第一學年の體格検査を行ふ。

○十七日、(木)晴、朝禮の際小鴻先生の告別式を行ふ。午後零時半より五甲、四甲、四丙の體格検査を行ふ。

○十八日、(金)晴、午前八時四十分出發宇曾川堤へ野外遠足を行ひ午後一時半歸校解散。

○廿一日、(月)曇、五乙、五丙の體格検査を行ふ。

五 月

○一日、(木)曇後晴、午前八時十分より本校創立紀念式を舉行す。

○二日、(金)曇、午前十時より長曾根波止場に於て水上大會舉行、風波高かりしため第九回まで進行午後三時中止す。

○三日、(土)雨、職員生徒登校せしも雨のため水上大會續行出來ず爲に臨時休校す。

汽車にて宇治、山田、二見方面に。第二學年は同列車にて桃山、宇治、京都方面へ修學旅行をなす。

○廿日、(火)雨、第四學年旅行隊午後七時廿八分歸彦、第三學年は午後三時四十二分歸彦す。

○廿一日、(水)雨、第四學年旅行者慰勞休業。第五學年旅行隊は本日午後六時廿七分歸彦す。

○廿二日、(木)晴、第五學年旅行者は本日慰勞休業。○廿七日、(火)晴、海軍飛行機見學に長曾根におもむく。(午後二時飛行機着)

本日は海軍記念日なるを以つて校長の訓話あり。

○二日、(月)雨後晴、東宮殿下御成婚大饗宴奉祝提灯行列に參加す。六時校庭集合七時半尾末公園出發十時歸園解散。

○三日、(火)曇、午前九時より學藝部大會を開く。

○十日、(火)同、岐阜縣立海津中學教諭酒向氏來校

室にて正副級長及び校友會理事の選舉を行ふ。午後零時半より新入學生の入學式を行ふ。新入學生百十九名出席。

○九日、(水)晴、第一时限の始めに新舊生徒の對面式を行ふ。

○十日、(木)晴、級長、副級長任命式を行ふ。校友會理事を決定す。

○十四日、(月)晴、佐久間先生の紹介式を行ふ。

○十五日、(火)晴、西澤先生の告別式を行ふ。

○十六日、(水)雨、午後零時半より第一學年の體格

○廿二日、(火)曇、二甲、二乙、二丙、四乙の體格検査を行ふ。

○廿三日(水)晴、三甲、三乙、三丙の體格検査を行ふ。

○廿五日、(金)雨、午後零時半より朝鮮人李性直氏の講演ありたり。(日鮮融和促進の目的に關する

大阪府立市岡中學校教諭前田德次郎氏、參觀のため來校す。

○廿九日、(火)晴、午後零時半より招魂社に參拜す

大坂府立市岡中學校教諭前田德次郎氏、參觀のため來校す。

○廿二日、(火)晴、午後零時半より新入學生百十九名出席。

○廿三日(水)晴、三甲、三乙、三丙の體格検査を行ふ。

○廿五日、(金)雨、午後零時半より朝鮮人李性直氏の講演ありたり。(日鮮融和促進の目的に關する

大阪府立市岡中學校教諭前田德次郎氏、參觀のため來校す。

○廿九日、(火)晴、午後零時半より招魂社に參拜す

大坂府立市岡中學校教諭前田德次郎氏、參觀のため來校す。

授業參觀。

○十一日、(水)同、福井縣立三國中學校安丸氏來校授業參觀。

○十三日、(金)曇、第一學期小試驗開始す。

○十七日、(火)晴、第一學期試驗終了す。

七 月

○三日、(木)雨、大中先生の告別式を行ふ。

○四日、(金)晴、第一學期試驗本日より開始す。

○十日(木)晴、第一學期試驗終了す。午後一時より長曾根水泳場にて水泳の始業式を行ふ。

○十一日、(金)晴、保坂先生の紹介式を行ふ。

○十二日、(土)晴、松方公爵國葬日に付き八時より校長訓話を行ふ。

○十八日、(金)晴、講堂に於て東林先生の「メートル」法に關する講話あり。

○廿二日、(月)晴、招魂社に參拜す。

十 月

○二十三日、(火)晴、秋季皇靈祭に付休校す。

○二十七日、(土)曇、第三时限より角力大會を行ふ
午後四時半終了。

○三十日、(金)晴、内務部長午後來校

○十六日、(木)雨、午後菊池氏の歐米軍事講話あり。

○十八日、(土)曇、九時十分より學藝部大會を行ふ。

○二十二日、(水)曇、文部省視學委員中川芳太郎氏

膳所中學校長中山氏、虎姫中學校長松原氏、縣視學向井氏、膳所中學教諭前田氏、今津中學教諭前田氏工業學校教諭岩村氏來校。英語科の授業を視察又は參觀す。

○三十一日、(金)曇、午前八時より天長節拜賀式を行ふ。午後直に陸上大運動會を行ひ午後六時半終了す。

○十八日、(水)晴、柳井先生の紹介式を行ふ。

十一月

○一日、(土)雨、運動會慰勞休暇

○六日、(木)晴、午後〇時四十分より心理感應術者金田氏の講話あり、二時五十分終了す。

○八日、(土)曇、第二學期時間割發表

○十日、(月)同、午後一時より公會堂に於て井伊直弼公誕辰祭舉行に付き五學年級副長代表として參拜す。

○十三日、(木)曇、行幸啓記念式舉行す。式後武道大會を開く。

○十四日、(金)同、虎姫中學教諭吉田氏來校。英語授業を參觀す。

○十五日、(土)雨、第二學期試驗始まる。

○十九日、(水)晴、小試驗終る。古市先生の告別式を行ふ。

○二十七日、(木)晴、柳井先生の紹介式を行ふ。

○廿三日、(水)晴、第二时限より講堂に於て左の東

亞同文書院學生三氏の講話を行ふ。

森嘉秀氏(第參拾壹回本校卒業)三橋勝彦氏(第參拾參回本校卒業)秋口京郎氏(第參拾貳回卒業)

○二十四日、(木)第二时限終り後講堂に於て修業式を行ふ。式後學校手帳を交付す。

八 月

○卅一日、(月)夏季休暇終了。

九 月

○一日、(月)晴、午前八時十分より國民精神振作の詔書奉讀式及び始業式を行ふ。並に末松先生の紹介式を行ふ。式後授業を行ふ。

○六日、(土)曇、第一學年級副長の任命式を行ふ。

○二十二日、(月)晴、招魂社に參拜す。

○二十八日、(金) 晴、京阪地方に向はせらるゝ
皇后陛下を午後三時二分彦根驛に奉送迎す。

○二十九日、(土) 晴、芹谷村方面にて發火演習を行ふ。

十二月

○五日、(金) 晴、第二學期時間割を發表す。

○十日、(水) 晴、皇后陛下京阪地方より御還啓、午前九時十一分三十秒彦根驛に奉送迎す。

○十二日、(金) 曇、第二學期試験開始す。

○十八日、(木) 晴、第二學期試験終了す。

○二十四日、(水) 學校手帳を交付す。

○二十九日、(木) 晴、午後講堂に於て終業式を行ふ。



校友會各部役員

○十二月

○十四日、會長 安河内先生

○十三日、副會長 伊藤先生

○十八日、理事 堀川辰之助

○六日、(木) 理事 鹿谷義雄

○八日、理事 山本先生

○一日、(木) 理事 内藤信夫

○二日、(木) 理事 大谷義雄

○二十九日、(木) 理事 岩澤久一郎

○三日、(木) 理事 清羽根田廣造

○四日、(木) 理事 中橋五男

○五年、(木) 理事 山田誠一

○六年、(木) 理事 中岩泉

○七年、(木) 理事 清羽根田廣造

○八年、(木) 理事 中橋五男

○九年、(木) 理事 山田誠一

○十年、(木) 理事 中岩泉

○十一年、(木) 理事 清羽根田廣造

○十二年、(木) 理事 中橋五男

○十三年、(木) 理事 山田誠一

三 年 吉田清一郎
田中良三

會計報告

大正十二年度校友會費

收入決算書

科 目	豫算額	決算額	差額	備考
新 入 會 費	二四、〇〇〇	二二、〇〇〇	八、〇〇〇	
預 金 利 子	八、四三〇	六三、三五〇	一七、〇六〇	
職 員 酒 金	一七七、四四〇	一七五、六九〇	一、七五〇	
生 徒 酒 金	三、八六、〇〇〇	三、九五、一〇〇	一〇一、〇〇〇	
計	五、四九、八八二	五、六〇七、〇五二	一二二、一九〇	



大正十二年度校友會費

支出決算書

科 目	豫 算 額	決 算 額	差 領	備 考
角 力 部	一四〇、〇〇〇	一一五、六五〇	二四、三五〇	
步 部	一五〇、〇〇〇	一一三、四六〇	三六、五四〇	
徒 足 部	八〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	
水 上 大 會	二五〇、〇〇〇	二四一、七四五	八、三五五	
陸 地 均 費	二〇〇、〇〇〇	一五五、四七五	四五、五二五	
道 具 費	八〇、〇〇〇	三三、一〇〇	五六、八〇〇	
臨 時 大 會	三〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	
雜 費	一〇〇、〇〇〇	一〇四、九五〇	四、九五〇	
豫 算 備 費	一六六、四三二	一六七、八六〇	〇、五七二	
計	五、四九、八八二	五、一九、五七〇	三七五、三二二	

科 目	豫 算 額	決 算 額	差 領	備 考
同 端 艇 費 積 立	九六、四五〇	一、八六、四五〇		
本 年 度 積 立	二〇〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	
野 球 防 禦 費 積 立	九六、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	
本 年 度 積 立	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	
記 念 文 庫	三〇、〇〇〇	三九、九三〇	〇、〇五〇	
藝 術 部	七〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	
體 藝 部	四六〇、〇〇〇	三〇七、八五〇	一七三、一一〇	
上 球 部	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	
球 部	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	
庭 水 部	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	
武 水 部	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	
雜 學 部	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	
學 端 艇 部	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	
文 藝 部	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	
記 念 部	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	
總 計	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	

支出摘要

大正十三年度校友會

收入豫算書

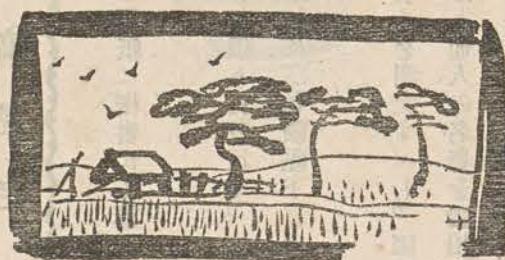
支出豫算書

科 目	豫 算 額	備 考
前 年 度 繼 越	一、九三、五三	
新 入 會 費	二九、000	
預 金 利 子	六五、000	
職 員 酒 金	一七五、000	
生 徒 酒 金	三、八八、000	五百八十人平均
計	五、九〇、九三	

前 年 度 繼 越	一、九三、五三	（端艇積立）
		一、一八六、四五
		一二〇、〇〇〇
		四八七、五〇二
新 入 會 費	二九、000	端艇新造費積立
職 員 酒 金	一七五、000	一、一八六、四五
生 徒 酒 金	三、八八、000	野球防禦費積立
計	五、九〇、九三	右 本 年 度 積 立

科 目	豫 算 額	備 考
端艇新造費積立	一、一八六、四五	前 年 度 繼 越 高
野球防禦費積立	一二〇、〇〇〇	前 年 度 繼 越 高
右 本 年 度 積 立	二九、000	
學 藝 部	三〇、000	
記 念 文 庫	三〇、000	
野 水 武 雜 部	二六〇、000	
球 上 術 誌 部	二六〇、000	

庭 球 部	四三〇、000
水 遠 步 部	一四〇、000
水 泳 費 部	一〇〇、000
水 上 大 會	二〇〇、000
陸 上 大 會	二〇〇、000
地 均 費	八〇、000
道 具 費	五〇、000
建 野 球 及 庭 球 倉 庫	二〇〇、000
臨 時 大 會	三〇、000
雜 豫 備 費	一四、五〇三
計	五、九〇、九三



編輯餘錄

一七八

やつと編輯を終へたが、さて良いのか、悪いのか、ちつとも分らない。兎に角同人がベストを盡した末出来たのが御覽の通りとなつた。

毎度云ふが原稿は必ず期日迄に提出して貰ひたい。再三延ばすことは、編輯其他に於て同人が非常に迷惑を感じる。投稿規定はまだ不徹底のやうだ、卷末にあるから熟讀して次回から厳守して貰ひたい。

原稿を見渡して特に気が附いたことは、諸君のうちで下級からの投稿が僅少ないこと、及び上級もほんの一部の人達に限られて居ることだつた。諸君の雑誌だから、採否などを懸念せずもつと／＼多數奮つて應募せられんことを切に望む。又誤字、脱字、當字が多いが、これ等も十分慎んで貰ひたい。

特別會員の野間先生が御投稿下さつたことは大いに感謝してゐます。なほ今後は諸先生の御投稿を切望致します。

今稿を終るに當つて言ひたいことは澤山あるけれども次回に譲ることとする。妄言多謝　（紫水）

投稿規定

一、本會所定の用紙に楷書にて認め且平假名を用ふべし。

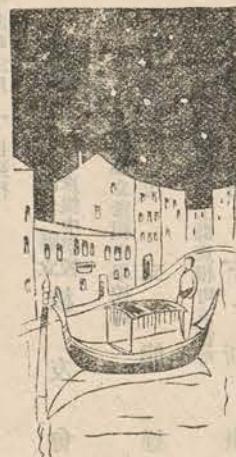
一、句讀を附し、猥りに改行すべからず。

一、各章段の最初及び句讀點下には必ず一字を明くべし。

一、年級と姓名とを明記すべし。匿名を許さず。

一、論政治に涉り他人の名譽を毀損するものは採らす

一、締切期限を遵守すべし。



明治二十七年五月三十日内務省認可

大正十四年二月廿五日印刷

大正十四年三月一日發行

(非賣品)

發行所

滋賀縣立彦根中學校友會

代表者

滋賀縣立彦根中學校內

足 立 熊 雄

印刷者

滋賀縣大上郡彦根町五番町

村 下 斯

印刷所

同縣

同郡

同町

村 下 活 版 所

同縣

同郡

同町

